

雪菜とシルフィードのネーヴェント・コンチエルトⅢ



シルフィード & 雪菜



■ オープニング

シル 「照りつける真夏の太陽が大地を焼き焦がし、その狭間に立つ諸兄諸姉の皆様方におかれましては『酷暑』という自然現象による灼熱地獄に見舞われていることと思われませんが、もぐつ、熱中症や脱水症状で倒れたりしていないでしょうか？ 本当に、ほんとーに心配です……もぐもぐ……」

雪菜 「シルさん、シルさん。氷枕の上にあぐらかいて、アイスクリーム食べているその姿では氣遣っている様子が全然伝わらないですよ」

シル 「なによ、あんただってかち割り氷満載のクーラーボックスから顔出してスケブに文字書いているじゃないの。文字通り涼しげな顔して」

雪菜 「わ、わたしは雪女だから仕方がないですよ!? こんなに暑いところに放っておかれたら溶けて水になってしまうのですよ！ 蒸発してしまうのですよ!!」

シル 「なに甘つちよろいこと言ってるのよ。見なさい、外では数多の猛者が聖地を目指して巡礼の列に立たされているというのに……」

雪菜 「ドヤ顔で外を指さしても、カップアイスのスプーンを握ったままでは恰好がつかないのです……」

シル 「まあいいわ、こんなクソ暑いところで延々と漫才繰り広げるよりも早く帰ってエアコン全開な部屋でのんびりしたいから、さつさとはじめて、とつとと終わらせましょうかね」

雪菜 「……シルさん、暑さで完全にダレてます……」

シル 「あつたりまえでしょうが」

雪菜 「え、えつと……それでは、雪菜と——」

シル 「シルフィードの『ネーヴェント・コンチエルト』！」

雪菜 「暑さにめげずに始まりなのですよ!」

シル 「こんな熱帯みたいな時期に『ネーヴェント・コンチエルト』も無いけどね」

雪菜 「そ、それは言いっこなしなのですよ……」

■ 同人ソフトジャンル初参加

シル 「というわけで、今回はあたしの名を冠した『Syphid Software Systems』と(う、べん)ぞの神託機械に紙テープよろしく飲み込まれそうなサークル名で参加しています」

雪菜 「作者さんも「よりにもよってあそこかよ!」と当時は嘆き悲しんだそうなのですよ」

シル 「実際、あそこに吸収されてからはロクな事になっていないからね。金にならない製品をページしまくったらOSとハードくらいしか残らなかったという状態だし」

雪菜 「世知辛い世の中なのですよ……」

シル 「まあ、そんなことはともかく。当サークルとしては初の同人ソフトジャンルでの参加となりました」

雪菜 「やっぱり『威沙』の配布をメインにするためなのでしょうかね?」

シル 「そんなとこね。今回偶然お隣になったサークルの方と冬コミの時に話して『技術系も楽しそうだ』と思ったこともあるみたいけど」

■ 配布物

シル 「さて、今回より文庫本作成ツール『威沙』のイメージイラストは、遂に……というか、ようやくあたしから本来の『時堂威沙』さんにバトンタッチとなりました。——うーん……あのお方を『さん』付けで呼ぶのはまだまだ抵抗があるわね……」

雪菜 「しれつと意味深なセリフを呟くのはどうなのですか……」

シル 「まあ、そのうち作者の作品で語られるでしょう。たぶん、恐らく、なるんじゃないかな、なると良いわねえー」

雪菜 「ぜんぜん、期待の持てないセリフなのですよ……」

シル 「その威沙さんのイラストですが、今回は作者が平日は音信不通が当たり前で超絶多忙なHushiさんのスケジュールに無理矢理ねじ込んだというロクデナシを地平線の彼方まで通り越して、ヒトデナシ極まりない経緯から生み出された産物です。ハッキリ言って鬼ですな、悪魔ですな!」

雪菜 「い、言いたい放題なのですよ……それでも、色塗りは作者さんがやっているんじゃないや……」

シル 「もしも威沙さんの絵の出来が微妙だったりしたら、それは全て作者のせいなのでクレームはそちらまでお願いしますね」

雪菜 「数日間睡眠時間削って塗った作者さんが憐れなのですよ……」

シル 「慣れないグラフィッカーなんて引き受けるのが悪いんじゃないや。そもそも線画だけじゃなくて色指定まであったんだからまだ楽だったでしょうに」

雪菜 「……タブレットの前で頭抱えていた作者さんが目に浮かぶのですよ……」

シル 「本題に戻って、今回同梱している『威沙』はこれまで開発版として開発してきたリリースを正式版として公開するバージョンとなります」

雪菜 「まだサイトにも公開されていない特別版なのですよ!」

シル 「今月末くらいにはサイト公開もする予定だからレア度はそれほどでもないけどね」

雪菜 「それでも、同梱しているマニュアルとかはサイト公開の予定はないのですから……」

シル「ああ、あれね……。本当はただのペライドコメントファイル一個作成の予定が『折角ならちゃんと体裁を整えた方がいいよね』『となるとDTPするしかないな！』って完全に駄目方向な発作的発想で突っ走ってドツボに嵌まっただけじゃないの。しかも夏コミ二週間前に」

雪菜『……ある意味凄いです……』

シル「生き方そのものが、ノリと勢いだけだから。絶対に真つ当な死に方しないわよ、作者」^{アイツ}

雪菜『そ、それはともかく……。今回の『威沙』からは開発中であった画面からのプロフィール微調整機能、新しいタグであるnumberタグ実装、そして新PreNEへの対応が含まれているのです！』

シル「……当初予定していた『変更プロフィール保存機能』こと『ローカルプロフィール』と、それに伴って実装予定だった『ローカルテンプレート』が未実装のままだけだね。しかもプロフィール調整機能だって全パラメータに対応していないし」

雪菜『じ、実装するための基本機能は殆ど実装されているそうなのですが、『逆に使いにくなりそんな感じがする』……ということで、実装延期しているそうなのですよ……』

シル「確かに、分かる人にしか分からないようなツールじゃ、そもそのコンセプトを満たせないわよね。作者もプロフィール修正機能とかを省いたシンプル版を作ろうか悩んでいたくらいだし」

雪菜『二つの開発を平行するのは大変なので、設定から『基本―拡張』が変更出来るようなものを考えているらしいのですよ』

シル「ま、いつの話になることやら……」

■ 近状

シル「原稿は進捗ダメです」

雪菜『そんなハッキリと……。このところはずっと夏コミの準備を頑張っていたのですよ』

シル「そもそもメインである小説本はどうしたのよ？」

雪菜『そ、それは年末までに……』

シル「次、コミティアもあるわよ、しかも申し込めば二回も」

雪菜『何も言い返せないのです……』

シル「まあ、あなたに文句言っても仕方が無いわよね」

雪菜『「雪と風と彼方の物語」だけでも何とかして欲しいのです。本当に』

シル「あたしも出ているんだからはよ書け、作者」

■ 次回予告

雪菜『えっと、先ほどにも話題が上がりましたが、今回は月末にあるコミティアなのです』

COMITA 109 724 a 旅人のザック

シル「どーせ、出し物は今回のコミケと変わらないでしょう？」

雪菜『そんな身も蓋もないことを言わないで欲しいのです……』

シル「まあ、この夏コミが終わったら一度『威沙』の開発はサスペンドして原稿とかの方に注力したらしいけど、その前に本業が荒れそうだしねえ……」

雪菜『何事も上手く行かないのですよ……』

■ エピローグ

シル「さて、珍しくイベント前日に『これ』を書いていないという希有な出来事もこのあたりで終わりになります」

雪菜『さすがに今回はそんな無茶は出来なかったみたいなのですよ』

シル「前回（Ⅱ）の時なんて旅行先で書いていたもんね」

雪菜『あれは……。わたしからみても無茶が過ぎだったのです……』

シル「しかも、帰宅したのは当日の朝でしょ？ それからこれを印刷して一時間仮眠してイベントでしょ？ ハッキリ言って馬鹿の所業よね」

雪菜『返す言葉も無いのです……』

シル「賢明な諸兄諸姉の皆様におかれましてはこのような無謀な行いをする人は居られないと思います……」

雪菜『毎年恒例の酷暑の中をここ（コミックマーケット）に来ている人達に言っではいけないような気がするのです!!」

シル「いや、そんなスケッチブックを高々と掲げて主張しなくて良いから……というか、雪菜も言うわね……」

雪菜『そ、それよりもメ！メなのですよ！』

シル「はいはい、それでは紙面も尽きかけているので、今回はこのあたりで!!」

雪菜『また次回、よろしくなのですよ!!」

雪菜とシルフィードのネーヴェント・コンチェルトⅢ おしま

文責:風野旅人 Mail:tabio@din.or.jp Twitter:http://twitter.com/tabio_kazeno

Sylphid Software Systems & 旅人のザック (http://www.din.or.jp/~tabio/)

ps.

シル「そもそもコレ(チラシ)はともかく配布物は大丈夫なのかしら？」

雪菜『威沙さんの絵の最終確認待ち……。だそうなのですよ……』

シル「今日、八月一三日よね……。当日まであと三日しか無いんだけど」